

コトノ賃銀鐵則ハ徐々ニ勞働者ヲ驅リテ困弊ノ地ニ陥入ラシムルニアラズヤ試ニ見ユ近時器械ノ發明ト共ニ生産力ハ以前ニ比シテ十倍百倍時トシテハ千倍萬倍セルアリ然ルニ多數勞働者ハ殖産革命以前ニ於ケルト同シク依然トシテ苛酷ノ勞働ニ従事スルニアラズヤ又一方ニ於テ少數ノ企業者ノ成效ハ他方ニ於テ多數ノ勞働者ノ困弊ヲ來シ貧富ノ懸隔ハ駭々乎トシテ益々不平等ノ域ニ達シ貧者ノ日ニ月ニ増加シ來ルハ是レ實ニ爭フ可ラザルノ事實ナリ今ヤ自由放任主義ノ弊ハ漸ク人ノ認知スル所トナリ國家ト云フ最モ便利ナル機關ヲ利用シテ此ノ難問題ヲ解決セントスル一般傾向ヲ生ゼリ吾人ハ決シテ國家ノ萬能力ヲ信ズルモノニアラザレドモ之レヲ利用スルノ効力ノ大ナルコト個人的事業ノ比ニアラザルコトヲ信ズルモノナリサレバ之レヲ利用スル何ノ不都合カアル今ヤ我國工業ノ進歩發展ハ財配上ニ一大變化ヲ來シ早晚世ノ施政家宗教家慈善家等ヲシテ其ノ治療ヲ講ズ其任ニ膺ルノ日來ラノコト今ヨリ豫言スルコトヲ辭セズ否現時既ニ來レリ豈ニ之レヲ等閑視スルコトヲ得ンヤ試ニ見ユ日清戰役後財界ノ膨張

ト共ニ頻々トシテ相次デ同盟罷工起リシニアラズヤ今ヤ日露戰役ハ既ニ終了シテ空前ノ汚點ヲ青史ニ傳ヘ屈辱的平和ニ終リシト雖財界ノ膨張ハ決シテ日清戰役後ノ比ニアラザルコトハ識者ヲ俟タズシテ明カナリサレバ豫カシメ之レニ對スル種々ノ方策ヲ講ズルト共ニ又勞働者保護ノ策ヲ講ズルハ刻下ノ急務ニシテ之レガ方策トシテ勞働保險法ヲ施行シ財力ノ許ス限リ之レヲ補助シ之レヲ經營スルハ國家ノ性質上當然ノ義務ナリト信ズルモノナリ斯ク記シ去リ記シ來リテ茲ニ至レバ吾人ハ徒ラニ冗長未ダ其ノ意ヲ得ザルヲ深ク憾ミトス詳細ニ至リテハ更ラニ論究ヲ試ミ他日大ニ論ズルノ機アル可シ乞フ之レヲ諒セヨ。

勞働保險論終

明治三十九年四月二十四日印刷
明治三十九年四月二十一日發行

金八拾錢

著作者 法學士 上村耕作

東京市麻布區飯倉町五丁目四十四番地

發行所 兼 印刷者 森江善次郎

東京市麻布區飯倉町五丁目(電話新橋二九七二)

發行所 東京市神田區表神保町 森江本店

發行所 東京市京橋區銀座四丁目 東京堂

發行所 東京市京橋區銀座四丁目 東海堂

發行所 名古屋三丁目 川瀬代助

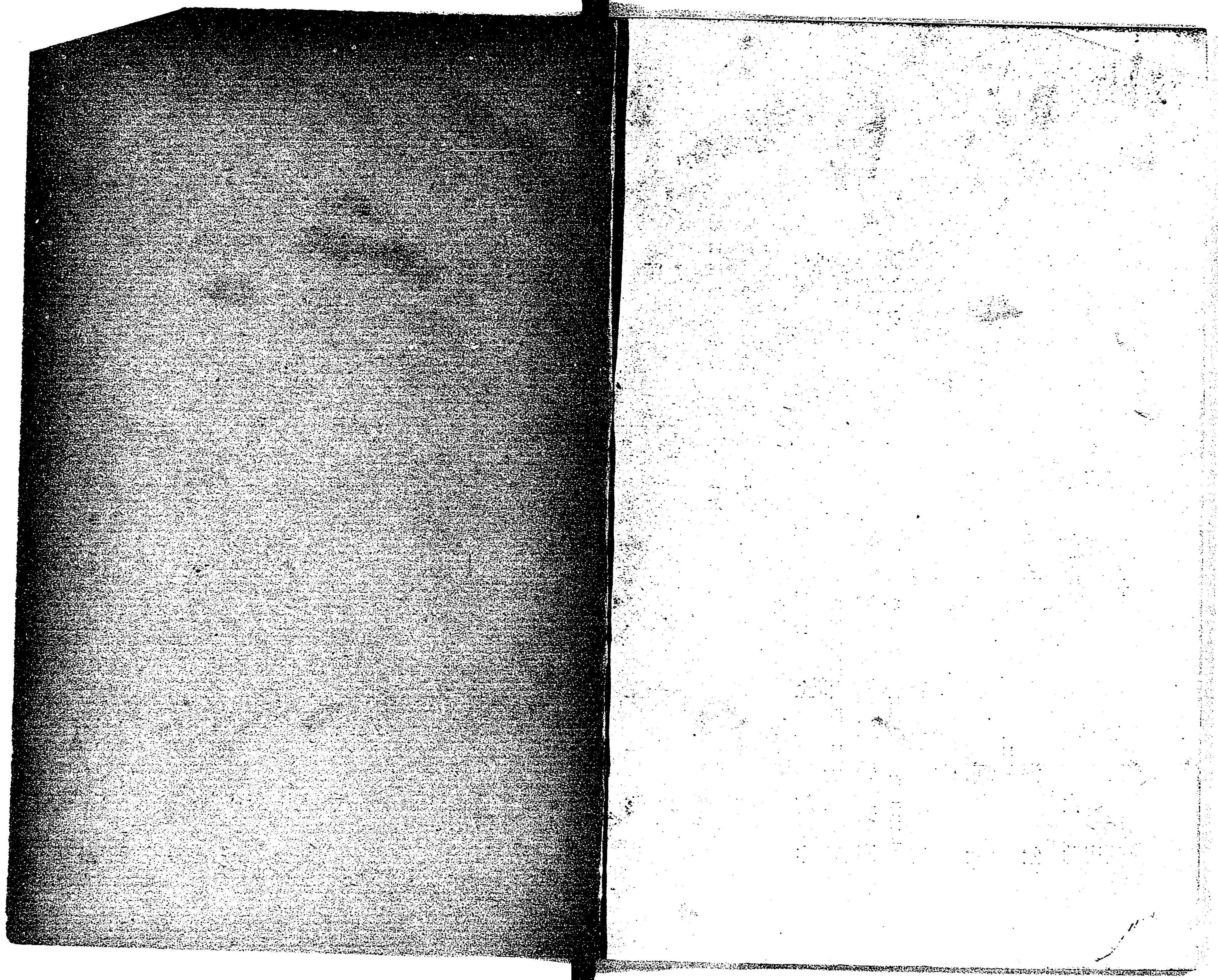
發行所 大本町三丁目 杉本代助

發行所 大塚三丁目 河合文港

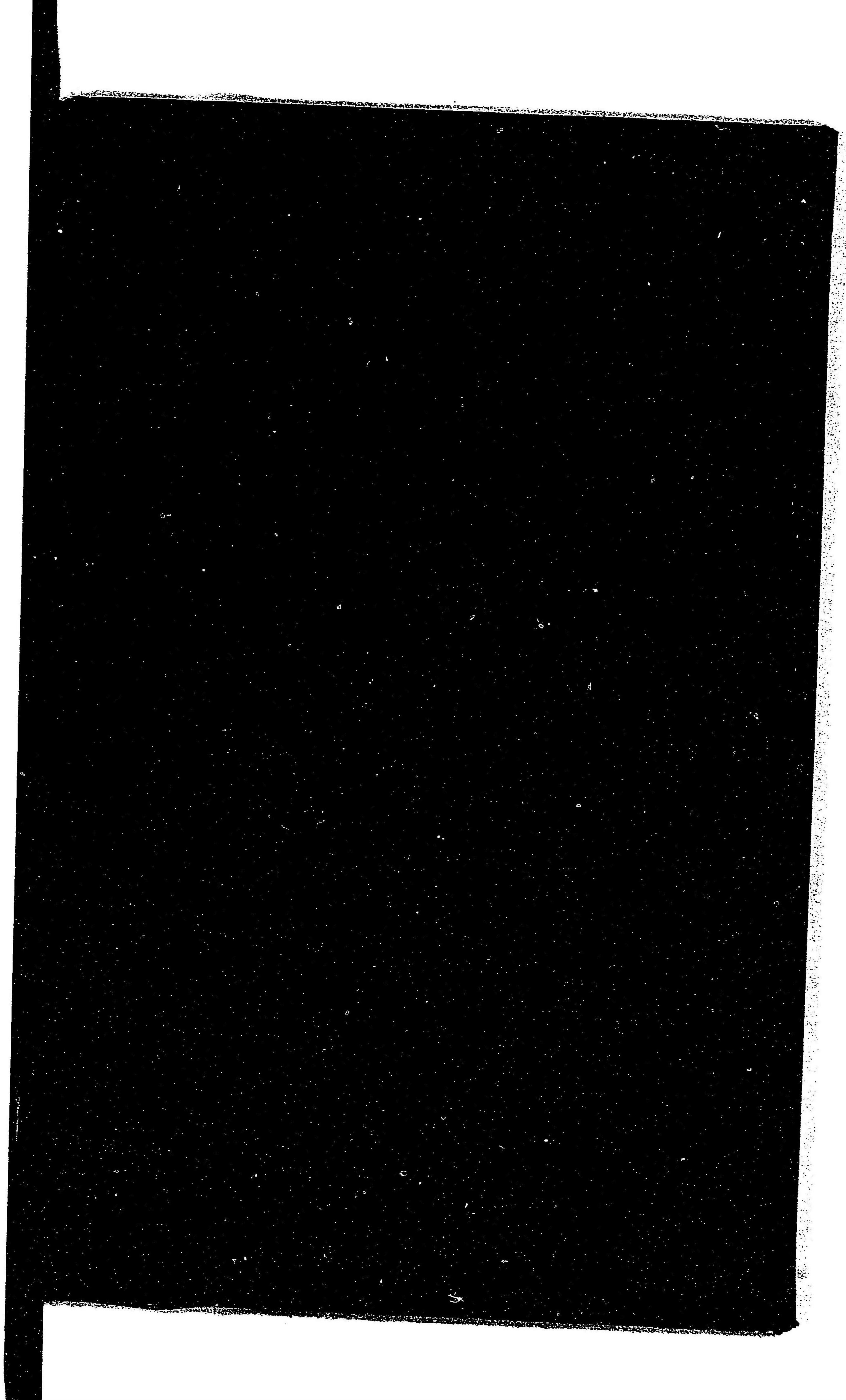
發行所 本町三丁目 河合文港

發行所 二都府前南區本町 河合文港

不許複製



| |
|-----|
| 27 |
| 328 |



041637-000-5

27-328

労働保険論

上村 耕作/著

M39

BDH-0104



